2023 年度第 3 回執行理事会議事録

日程：2023 年 9 月 9 日（土）10:00-12:00【WEB 会議】
出席： 岡田　誠，杉田律子，星　博幸，中澤　努，緒方信一，内尾優子，尾上哲治，加藤猛士，狩野　彰宏，亀高正男，小宮　剛，坂口有人，高嶋礼詩，辻森　樹，松田達生，山口飛鳥
監事：岩部良子
欠席：内野隆之，矢部　淳，（監事）山本正司
事務局　澤木
＊定足数（過半数：10）に対し，執行理事 16 名の出席
＊前回 23-02 議事録案は，本執行理事会にて承認された.

報告事項

１．全体的報告

・　全国地質調査業協会創立 60 周年記念式典（10/20）への招待があった．岡田会長出席予定.
・　防災科学技術研究所創立 60 年記念式典（11/16）への招待があった．杉田副会長が出席予定.

2．運営財政部会（亀高・加藤）

1）　総務委員会
＜共催・後援依頼，他団体の募集，連絡等＞
・　社会地質学会より，第 33 回社会地質学シンポジウム（11/24-25;於日本大学文理学部・ハイブリッド）への後援依頼があり，承認した.
・　第 23 回こどものためのジオ・カーニバル(11/4-5；於大阪市立自然史博物館)への後援依頼があり，承認した.
・　中谷医工計測技術進行財団より，「科学教育振興助成募集（募集期間 10/1-11/30)」および「次世代理系人材育成プログラム助成募集（10/1-11/20)」の案内があった【→geo-flash,ニュース誌 9 月号掲載】
・　山田科学振興財団 2024 年度海外研究援助課題公募（10/31 締切）の募集があった【→geo-flash,ニュース誌 9 月号掲載】
・　山田科学振興財団 2023 年度研究援助（2023/2/28 締切）への地質学会推薦応募 2 件は不採択となった.
・　地学団体研究会より（声明）1．福島第一原発の 「処理水」海洋放出を強行せず，汚染水発生量の抜本的な削減を求める/2．GX 脱炭素電源法（原発回帰法）の成立に抗議する/3．学術会議の独立性を脅かす政府の「有識者懇談会」に反対し，真に「開かれた協議の場」の設置を求める（2023 年 8 月 25 日付）　が送付された.
・　The 19th International Conference on Thermochronology（Thermo2025）（第 19 回国際熱年代会議：2025 年 9 月 14～19 日;於金沢）への共催依頼があり，承諾した．2025 年度科研費申請も含め，協力体制を取る.
＜会員＞

１．今月の入会者(25 名)
賛助会員（1 社）：三洋テクノマリン株式会社
正会員（9 名）
一般会員（2 名）：鈴木拓馬，髙見幸恵
学生会員（7 名⇒単年度：2，2 年パック：2，3 年パック：3）：吉田　頌，遠藤　拓，中井　花，髙﨑　理央，奥脇健生，井上　創，鈴木優花
２．今月の退会者
正会員（4 名）
一般会員（4 名）：笠原慎平，細田未季，高澤拓夢，石山恭行
３．今月の逝去者
正会員（1 名）
シニア会員（1 名）：西田民雄（逝去日：2023 年 8 月 17 日）
４．2023 年 8 月末会員数
賛助：29，名誉：38，ジュニア：3，正会員：3201［一般：2151，シニア：847，学生会員：203］
合計 3271（昨年比-33）
＜会計＞
・　下敷き増刷について（→審議事項）
＜その他＞
・　特になし

3．広報部会（内尾・松田）
1）広報委員会（内尾）
・　学術大会プレスリリース（→審議事項へ）

４．学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）
1）行事委員会（高嶋・山口）
・　日本地質学会第 130 年学術大会（京都大会）準備状況
- 予定通り，完全対面式で口頭，ポスター，懇親会を実施する．シンポジウム 1 件，トピックセッション 16 件.
- 講演申込：口頭 260 件，ポスター266 件の合計 526 件（Jr セッション含む），事前参加申込者 720 名（昨年 563）（参考）昨年大会参加者数：686
- 表彰式の時間では十分な受賞スピーチの時間が取れないため，小澤賞・柵山賞の記念スピーチを 9/19（大会 3 日目）に実施する.
- 懇親会申込状況：131 名
- 巡検催行について： 9 コース中，8 コースが最少催行人数に達し，実施予定.
- 有料の企業ランチョンを開始⇒1 件（ブルカ―ジャパン）が応募
- 業界説明会：47 企業（対面 32，オンライン 35，両方 21）が参加.
  学生のエントリーが少ないので，ぜひ学生への周知をお願いしたい．若手活動運営委員会にも広

報を依頼する.

- ➢ 巡検案内書：公開済み 4 件（C, G, H, I），受理済み 2 件（D, F），未受理 2 件（A, E コース→査読後，著者返却中），未投稿 1 件（B：中止決定済み）

・ 2024 山形大会準備状況

- ➢ 実施日程：2024 年 9 月 7 日（アウトリーチ巡検），9 月 8-10 日（講演会），9 月 11-12 日（巡検）
- ➢ 巡検（7 コース）・案内者，編集委員長の選定は終了．会場の仮予約は進行中.

・ 2025 熊本大会（熊本大学）

- ➢ 大会委員長，会場，巡検担当者がほぼ決定.

2) 専門部会連絡委員会（尾上）

・ 文科省より「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第３次）【仮称】の推進について」の意見募集（パブリックコメント募集）があり，各専門部会へ周知した.（募集締切：9 月 19 日）

3) 国際交流委員会（辻森・岡田）

・ IGC2024 対応について

4) 地質標準化委員会（内野）

特になし

５．編集出版部会（狩野・小宮）

1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）

(1) 編集状況報告（2023 年 9 月 4 日現在）

・ 2023 年投稿論文：43（昨年比-6）［内訳］総説 1（和文 1），論説 16（和文 16），ノート 3（和文 3），レター6（和文 6），報告 6（和文 4，英文 2），フォト 2（和文 2），討論 1（和文 1），巡検案内書 8
査読中：29，受理済み：3

・ 129 巻：公開済み 34（452 ページ），入稿・校正中 7

2) Island Arc 編集委員会（狩野）

(1) 編集状況報告

3) 企画出版委員会（松田）

特になし

６．社会貢献部会（坂口・矢部・内野）

1) 地学教育委員会（坂口）

特になし

2) 地質技術者教育委員会（坂口）（→審議事項へ）

3) 生涯教育委員会（矢部）

地質の日の 5 月にオンラインの講演会を実施した．10 月開催のジオパークの会議での講演会の有効性について報告することについて，良いこととして承認した.

4) 地震火山地質こどもサマースクール（星）

・ 8/17-18 地震火山地質こどもサマースクール in 平塚　参加報告（松田）

5) 地質の日（矢部）

特になし

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネージメント委員会（中澤）
特になし

2) 若手育成事業検討 WG（内野）
特になし

3) 表彰制度検討 WG（中澤）
特になし

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会（矢部）
特になし

2) 地学オリンピック支援委員会（坂口）
特になし

3) 支部長連絡会議（杉田）
特になし

4) 地質災害委員会（松田）
特になし

5) 名誉会員推薦委員会（星）
特になし

6) 各賞選考委員会（中澤）
特になし

7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会（辻森）
特になし

8) 連携事業委員会（中澤）
特になし

9) 法務委員会（中澤）
特になし

10) 若手活動運営委員会（星）（→審議事項へ）
特になし

9. 研究委員会

1) 南極地質研究委員会（委員長　大和田正明）
特になし

2) 法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）
特になし

10．その他

１）巡検案内書ワーキンググループ（杉田）【報告資料 01】

締切の前倒ししても，効果はなく，順守者の負担を増やすことになるため，前倒しは行わない．

巡検担当者が編集委員会と早い段階から連絡を密にすることが重要と考える．

巡検担当者決定後に，編集委員長が決定されるため，編集委員長決定後に巡検担当者の決定が行われることが良いと考える．

LOC と編集委員会との連携について，巡検担当者とは，巡検統括と巡検案内書編集委員長の内，巡検統括者の意味である．

審議事項

1. 2023 京都大会学術大会関連のプレスリリースについて（内尾・高嶋）【審議資料 01】

例年通りの情報提供を行うが，今年は，特筆すべき学術発表の情報提供はなし．

2. 若手活動運営委員会の委員の追加（星）（理事会【審議資料 02】参照）

委員会より提示の委員の追加と副委員長の任命について，確認した．理事会へ上程．

3. 地質技術者教育委員会規則（案）（坂口）（理事会【審議資料 04】参照）

委員会より提示の規則案について確認した．理事会へ上程．句読点位置等体裁について微細な修正を要する．

4. 下敷き増刷について（亀高）

干渉色図表・偏光顕微鏡による鉱物鑑定表の下敷きの増刷について，大学等授業での定期的な需要もあるため，1500 枚増刷を承認した．原材料費高騰のため販売価格を会員 300 円，非会員 400 円とする．

5. 理事会審議事項の確認

① 選挙管理委員会メンバーの選出

② 若手事業運営委員会のメンバー追加

③ 総務委員会規則（案）の承認

④ 地質技術者教育委員会規則（案）の承認

⑤ 地質技術者教育委員会メンバーの再任

6. その他

・ 地質学雑誌の引用文献に関する問題提起（ページチャージの対象から文献欄を外すことについて/文献欄の和英併記について）（小宮）

規則により文献欄は和英併記が必須となっており，紙幅に影響している．超過頁代金（著者負担）の対象から文献欄を外す配慮が必要でないか．との問題提起があり，議論した．文献欄は文字サイズの

縮小化(6ポイント程度)によって頁数が抑制されるため,超過頁代金は現状ルールのまま継続する.なお，文献和英併記は，Web of Science への収録を目的としたためであったが，再度収録をめざすべきかどうか,収録のメリットを改めて明確にし,編集委員会からも意見を聴取することとなった.またWeb of Science以外のデータベース（例；Scorpusなど）も視野に入れてはどうかとの意見があり，地質学雑誌のデータベースへの収録状況を確認することとした．継続審議.

・ 各賞選考に関しての質問状について

海洋地質部会長，構造地質部会長連名の質問状が執行理事会宛に寄せられた．今回の選考について，選考結果の通知（落選の場合)，選考理由の情報開示，選考プロセスの透明性と公正性に関わる内容であった．これを受けて指摘事項に関する各賞選考の現状認識を行った．回答については次回以降に検討することとし，継続審議とした.

・ 韓国IGC2024への対応と大韓地質学会とのMOU更新について

9/1，IGC韓国LOCより日本国内での巡検企画提案について最終要請があり，9/2，大韓地質学会よりMOU継続希望と大韓地質学会学術大会への招待レターが送付された.

IGC韓国LOCへは，懸案事項（日本海呼称問題，竹島巡検）について韓国からの正式な対応・回答がないままでは「未解決」の状態であり，学会としては協力できないとの従来の立場に変更はない．大韓地質学会とのMOUの更新は，IGC2024終了以降に改めて検討していきたい．今回の招待も辞退する主旨の返信を行う.

監事コメント

（岩部監事）時間の制約がある中で，理事会に臨める審議がなされていたと評価する.

以上

2023年10月14日

一般社団法人日本地質学会

会長（代表理事）岡田　誠

署名人　執行理事　中澤　努